

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092100011		
法人名	社会福祉法人 軽井沢町社会福祉協議会		
事業所名	社会福祉法人 軽井沢町社会福祉協議会 くにちゃん家		
所在地	長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2371-2		
自己評価作成日	平成21年9月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092100011&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成21年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉協議会が運営している事業所として、利用者一人ひとりにあった支援を進めるためには、利用者の本当の思いや望みをくみ取ることが大切なことだと考えています。利用者個人個人の思いに合わせ、支援が必要になっても、住みなれた地での生活継続に向け、これまで築き上げてきた家族や地域社会との関係性を保ちながら、利用者本人の「生活の視点」に着目し本人、家族の笑顔を大切にすることもより、利用者を取り巻く全ての関係機関(医療・保健・福祉・地域)との連携を大切に、住みなれた地域での生活を可能な限り継続できるような支援体制の構築を基本に、利用者・家族の思いを尊重したケアを進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心地にありながら国道より少し入った所で静かな環境である。老人福祉センター、小規模多機能型居宅介護と隣接し、住み慣れた地で顔なじみの人たちと関係を持ちながら生活が継続できている。また協力病院である国保病院とも隣接しており、利用者も家族も安心できるとともに医師、薬剤師も参加するケア会議が毎週開かれ連携が取れている。なお小規模多機能型居宅介護事業所とは同一法人のため、行事など一緒に計画されるものが多く日々利用者も往来し交流している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
ユニット名()				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりとやすらぎのある生活に向け日々職員と事業所の理念を共有し具体的なケアに結びついている。	地域密着型サービスの意義と社会福祉協議会の指針を理解したうえで、全職員で理念がつけられている。また新任職員にも周知するよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間事業計画を立て、町の事業や地区サロンなどへ参加している。また区民の一員として回覧板での情報収集や地域の活動への参加に努めている。	年間事業計画のもとに小規模多機能の事業所の利用者との交流、公民館、老人福祉センター行事参加、毎月の地区サロンに積極的に参加している。また回覧を回したり地区の作業にも参加し、地域の方々との交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会の開催や地区サロン、町の催しものなどを通して認知症の方との関わり方を伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での経過報告や画像を使い日常生活の様子を伝えている。そこでの意見は全職員に伝えており、励みとしている。	運営協議会設置要綱により昨年の開設以来、2回の会議が開催されている。会議には地域2名、民生福祉委員2名、行政1名、家族2名で構成され、事業所より利用状況、運営方針、事業計画の説明や報告がされ質問、意見、要望が委員より出されている。	初めての外部評価を受け、その結果と改善の取り組みを報告し助言をいただくとともに、災害対策に関し地域の協力依頼と体制も、今後の検討課題である。なお利用者の思いを表出する場としても、利用者が会議へ参加されることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の開催している担当者連絡会やケア連絡会に参加し現状報告及び情報交換に努めている。	町主催の高齢者サービス担当者連絡会に出席し、現状報告や情報交換がなされている。また担当者は視察、温泉券の配布、米寿者のお祝い等には事業所を訪問されるので、現場を見ていただいたり報告している。	サービス担当連絡会、ケア会議で現状報告、情報交換を積極的に行うとともに、現場にも足を運んでいただき協力関係が更に深まることを期待する。

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	快適な環境作りに心掛け、各自に合わせたコミュニケーションに取り組んでいる。やむをえず安全のために拘束せざるを得ない可能性や状況について家族にお伝えして理解を得たい。		行動を制限しないと言う方針でケアしていますが、利用者の行動についても考え、安全に生活できるように工夫されることに期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の講演会などに参加し理解を深めている。また職員もゆとりや思いやりが持てるよう人間関係を築いている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で行っている研修会に参加し、新しい時代に即した諸制度の理解を深めるとともに、職員並びに各セクションとの連携を持ち情報を共有するように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族に気軽に相談頂けるよう、傾聴の姿勢を大切に、家族の協力が重要であることと一緒にケアを進める体制作りに努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の今まで培ってきた生活歴を紐解きながら、その人に合ったケアに向け、家族との協力を頂き、一緒にケアを進める体制作りに努めている。	利用者は日常の会話の中で、家族は面会や行事参加の中で話すようになり、改善へ結び付けている。	引き続き利用者、家族との良い関係が継続されるよう努め、スタッフも家族も利用者本位で運営に反映していかれることを期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングにおいて運営に関する意見などを代表者へ伝えている。また、日頃から行事への協力や参加を通じてコミュニケーションを図るようにしている。	職員会議の中で皆と同じ位置で相談しながら代表者に伝えている。なお年1回の代表者との個人面談の中でも意見を言える場を設けている。	代表者や管理者は職員が意見を言える関係と機会を設け、今後も運営に反映していかれることを期待する。

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、客観的な評価基準に基づいて職員を評価し、個人面談により各自の思いを聞き、働きやすい職場環境作りに努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全体の勉強会に参加。様々な事業を展開している中で、社協の役割と、新しい時代に即したサービスの在り方について職員皆で研修を重ねている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内の先進的なグループホームへの研修や東信地区のグループホーム管理者連絡会などを通じ、質の向上に励んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>今までの繋がりがあるケアマネ等を交えながら本人の気持ちを伺い、受け止めるなかで、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人と家族が、利用を希望するに至ったいきさつや事情をゆっくり伺っている。いつでも本人と会えるような環境を整え、またグループホームに相談や気づきを伝えていただくように配慮している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の生活への思いや関わり方について相談を繰り返す中で必要なサービスを共に考えている。</p>		

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の「生活の視点」に着目し、一緒に生活を送る中で、利用者の今まで培ってきた生活歴を紐解きながら、利用者の身近な存在になれる様努めている。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活歴や得意なこと等を家族からお聞きし、やすらかに生活が送れる様お互いに情報共有する中で、より良いケアに向け家族の協力を頂くように努めている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や散歩時に地域の知人に声を掛けて頂く。また馴染みの行事への参加などを心がけている。	所属していた団体の友人が面会に訪れたり、隣接する老人福祉センターに通ってくるかつての仲間との交流がされている。	立地条件を活かしたかつての仲間との交流が出来るよう、支援の継続を期待する。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士の関係を観察している。関係性に配慮しながら、職員が潤滑油になるように努めやすらぎのある生活が続くように努めている。			
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係性の継続に向け、気軽に立ち寄って頂ける関係作りに留意している。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや希望を伺うように努め、本人の思いを聞きとるのが困難な方は家族などから情報を得ている。チームでその実現を話し合っている。	生活している中で会話や表情により把握するよう日々努力しており、聞き取りが困難な場合は家族から情報を得ている。開所当初と比べ職員の力も向上してきている。	日常、利用者との関わりの中で把握した情報を職員間で共有し、利用者の思いや意向が実現できるよう、継続されることを望む。	

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中から本人の好みの食べ物や子育てを伺っている。また家族にも本人の暮らしぶりを聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックは元より、本人の顔つき、表情に留意し、今までと違った行動や変化に迅速に対応できるよう観察を欠かさない。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例ミーティングで情報交換や意見交換を行い介護計画を作成している。必要に応じて家族や主治医などの意見を伺っている。	センター方式を利用してシートにいろいろな人の目線でとらえるよう全員が記入し、それをもとに介護計画を作成している。	利用者本位の計画になるよう、利用者や家族の希望や意見を更に反映させていくことを望む。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活一覧表やケースなどに日々の様子や気づきを記録している。またセンター方式を活用し本人の姿を共有できるように取り組んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉協議会が運営している事業所として、地域及び関係機関の協力を得、その人に合ったケアに向け、できること探しに努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近接する中央公民館や老人福祉センターでの催しに参加している。町の事業による温泉券を利用して温泉に出かけている。月1回地区社会福祉協議会の方が、地区サロンを開催している。		

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行の受診となっているが、家族の状況に応じ、往診にて馴染みの関係を継続できるよう支援している。	ほとんどの利用者が利用前からの同じ医師に受診して利用者や家族の希望は受け入れている。受診は基本的には家族同行だが不可能な利用者は職員が代行している。訪問診療による受診の利用者もある。	治療中の利用者については、受診支援がされているが、治療を必要とする病気を持っていない人の健康診断を協力医療機関等により、年1回は実施されることを望まれる。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違った様子を併設している小規模多機能型居宅介護事業所の看護師へ相談し、必要に応じ受診支援している。また学習会などの協力を依頼している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段とは違う入院生活のため、日頃の本人の様子を医療機関へ伝えている。また本人の不安軽減が図れるように面会をして手作りパズルを届けるなど配慮した。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早めに家族やかかりつけ医と相談し、家族の意向や診察の方針を聞いて支援に反映させている。	入所時に重度化した場合や終末期について希望を聞いている。状態変化があった時に再確認している。重度化した場合、医師の意見も参考にしながら家族の意向にそうようにしている。	今後ホームでの看取りを考えて、利用者や家族の希望にそえるようにターミナル指針、同意書作成と職員のターミナルケアに対する研鑽を望む。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会への出席や職員間での学習会を開催し、実践力をつけるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を立て、定期的に訓練を実施している。災害時には地域との協力体制がとれるように協力者を依頼してある。消防署員の立ち会いで避難経路の確認、消火栓の使い方などの訓練を行っている。	避難訓練を夜間想定も含め、年2回実施している。消防署員による避難経路の確認や消火器の操作法の訓練もしているが、地域の協力者の訓練参加はない。	特に職員の手薄な夜間の災害を考えると通報装置の早期設置を期待する。

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内での学習会への参加やミーティングでケースを通して話し合う機会を設けている。	法人内で研修やミーティングの中で話しあっている。また日常利用者との接し方で気付いた時はお互いに注意があったり、話し合いをして利用者をよく理解した対応をしている。	今後も利用者との良い人間関係を築き、人格の尊重とプライバシーの確保の継続を望む。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて意思表示しやすい声掛けまた表情や全身での反応などを観察するように工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に定めていない。各自の健康状態や気分、こだわりやペースに合わせて無理のないような支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や好みにより着替えの服を自分で選んでもらっている。また外出時には、身だしなみの御膳だてをしたり、不十分なところはさりげなく支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえを共に行いながら食事の好みや硬さなどを聞いている。食卓で出来たおかずやお届け物などを話題にして楽しい雰囲気づくりに努めている。	主に食事の下ごしらえを一緒にしており、その中で食事の好みや普段の食事量を聞いている。また食卓を囲みながら旬の食材や味付け等を話題にし、楽しく食事が摂れるようにしている。なお飲み物は緑茶、ほうじ茶、紅茶、コーヒー等好きなものが、何時でも飲めるよう備えている。	利用者の個々の状態を把握し、一人ひとりの役割を持てることが出来る張り合いや自信、楽しみに繋がっていくことを望む。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活一覧表に日々の水分量や食事量などを記録し、本人の体調や変化に合わせてメニューの変更や食べやすいように工夫している。		

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けしている。また口の中を他人に触られる利用者の気持ちに配慮して各自の力に応じて支援している。			
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活一覧表にて排泄の状況やパターンを把握し自立的に排泄できるように支援している。	夜間のトイレの回数と日中は介助の必要な人のチェックをして排泄のパターンを把握するようにしている。また安易に手を出さず出来るところは自分でやるよう見守っており、便器を汚しても掃除すれば済むことと考え、現存の機能を最大限引き出すようにしている。	排泄の自立支援を心がけているが排泄で困難な事例が見られる場合は看護職との連携を図ることを望む。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェックは元より、本人の顔つき、表情に留意し、ヨーグルトや食物繊維の摂取などに加え、適度な散歩などを行って便秘の改善や予防に努めている。			
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のその日の希望により入浴していただいている。嫌がる方には、声掛けの工夫をし入浴して頂いている。	入浴日を把握し3日以上間が空く時は、声掛けして入浴することをすすめている。介助の必要な場合もできる範囲で自分できるようにし、自立の人には声掛けをしている。	将来重度化した時の対応を早い時期より検討することを望む。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方を穏やかに過ごしたり、日中の活動性を高めるなど、安眠に繋げる工夫をしている。寝苦しい時には、ゆっくり会話を聞くように心掛けている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書で、副作用や効能を確認している。処方の変更があったときは特に状態観察に努めている。職員によりケースごと薬管理をし、服薬時は二人の職員で確認し本人に渡している。			

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、ぬり絵やはり絵などに取り組み、作品展に出している。各自の力を発揮できるようにゴミ出しや洗濯たたみなどをお願いしている。季節感のある食事やおやつを工夫している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方との交流も兼ね、回覧板と一緒に届ける。近隣への散歩やお花見、運動会など季節に合わせた屋外活動も行っている。また家族にお知らせし、現地で落ち合って交流することもあった。	散歩は日常的にしているが、退屈している様子が見られる場合は散歩に誘っている。また買い物の希望がある場合も同行し、自分自身で買い物をする事ができるよう支援している。	利用者の希望を捉え、家族との調整も含め実現させる努力の継続に期待する。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活の視点を大切にし、買い物等お財布に触れる機会を設けている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が来た時には、子機を本人に手渡し、自室にて話していただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下など共有スペースの温度管理、廊下には思い出の写真や作品を展示している。	天井の高い共用スペースの壁には利用者が作った四季の貼り絵が飾られ季節が感じられる、心和む空間である。入居者の特技を活かした手づくりカレンダーや自作の句を部屋の入り口に貼ってあり、趣味を楽しんでいる様子が伺える。	古拙を感じられ、居心地よく過せる共用空間の中で趣味も続けられ、安心して生活できる支援に期待する。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子や籐の椅子などを置き、1人で寛ぐ空間の工夫をしている。テラスでも椅子とテーブルを置き複数の方での寛ぎ空間がある。		

外部評価(社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使いなれた日用品などに囲まれ、居心地の良さに配慮している。	居室には仏壇、位牌、使い慣れた机や椅子が配置されポットとコーヒーが机上にセッティングされ、居心地の良い生活空間に配慮している。	馴染みのものが置かれた居室で居心地よく生活が続けられていくことを望む。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせたケアに向け、本人の出来る力を最大限に活用できるような支援のあり方に留意している。		